

琵琶湖漁業の持続的発展に向けて

- 「琵琶湖と言えば、おいしい湖魚の産地」と県内外に広く認識されるように、漁協組織の体制強化と適切な資源管理を進め、“儲かる漁業”の実現を目指す。

【提案・要望先】農林水産省

1. 提案・要望内容

(1) 漁協統合に係る専門家派遣等による継続支援

- 漁業組織の再編・統合と円滑な事業運営に向けた、国からの専門家派遣等による継続的な支援

(2) 水産資源の科学的な評価および管理の高度化に係る継続支援

- 水産資源の科学的な評価と、これに基づく資源管理の実践に必要な調査等に係る予算の確保

2. 提案・要望の理由

- 琵琶湖漁業の魅力を高め、次世代につなぐため、一人ひとりが精鋭となる“儲かる漁業”への転換を図るべく、2030年のあるべき姿を漁業者1人あたりの年間水揚げ高1,000万円と掲げ、令和3年度から10年間を集中的な取組期間として、琵琶湖漁業の体系的な改革を推進。
- 現在、基礎づくりとして、国の事業を積極的に活用しながら、漁業者と行政が一体となって、“漁協統合”、“資源管理”、“流通改革”を推進しているところ。

(1) 漁協統合に係る国からの専門家派遣等による継続支援

- 「流通改革」等を強力に推進するためには「漁協統合」が重要。現在、本県で進めている漁協の再編・統合および統合後の円滑な事業運営に向けた国からの専門家派遣等による継続的な支援が必要。

(2) 水産資源の評価および管理の高度化に係る継続支援

- 琵琶湖の水産資源を最大限活用するには適正な資源管理が重要であり、科学的な資源評価および漁業者による管理措置の実践が不可欠。このためには資源調査および取組の効果検証に対する必要な予算について国の継続的な支援が必要。

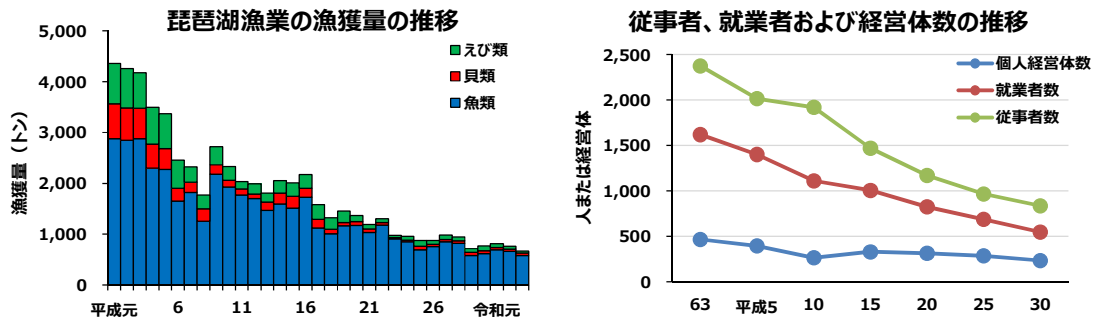
(本県の取組状況と課題)

(1) 漁協統合に係る国からの専門家派遣等による継続的な支援

(2) 水産資源の評価および管理の高度化に係る継続的な支援

琵琶湖漁業の現状

○ 漁獲量と漁業従事者の減少が顕著。



○ 湖沼漁業特有の課題が、儲かる漁業への転換の足かせに。

- ◇ 生産量 \square + 組織力 \square 、販売力 \square 、経営指導力 \square = 相対取引中心
- ◇ 伝統漁法中心、開発遅れ = 操業効率 \square

改革のための取組

① 漁協統合

「漁協経営基盤強化対策支援事業」(水産庁)を活用し、滋賀県漁連が県1漁協への合併を目指し検討中。県予算で一部漁協の欠損金処理や指導的職員配置を支援。

② 資源管理

- ◇ 国の支援を受け、漁業者がスマホ等から漁獲情報を報告できるアプリを令和3年度に構築。令和4年度より本格稼働し、資源評価等に活用。
- ◇ 対象を、既存のニゴロブナ・ホンモロコ・セタシジミの3種にアユ・ビワマスを追加。
- ◇ 主要魚種の1つであるビワマスは、遊漁による利用が増加傾向。既存の漁業調整委員会での承認制度を活かしつつ、漁業と遊漁の包括的な資源管理のあり方を検討。

③ 流通改革

- ◇ 漁業組織による新たな流通モデルの検討・実践を支援。県職員もセールスマンとして事業者の取組を後押し。
- ◇ 組織再編の動向を踏まえつつ、琵琶湖漁業の流通のあるべき姿(新たな「浜の活力再生プラン」の策定等)を検討。

④ その他

- ◇ 担い手の販売スキル向上、学び合いの場の提供および就業者の受け入れ体制の整備。
- ◇ 既存漁法の効率化や新規漁法の開発、漁獲物の鮮度向上など技術面から漁業者を支援する「水産技術相談窓口」を水産試験場に新設。(令和4年度)

担当：農政水産部水産課漁政係、水産振興係、漁場環境・資源係
TEL 077-528-3872、3873、3874